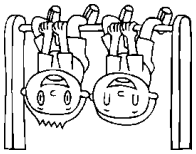
学校だより



令和４年　11月30日
横浜市立　三ツ沢小学校

むずかしいことをやさしく

校長　高木　伸之

師走を迎えた街にシクラメンやポインセチアがとてもよく似合っています。

さて、私は発見タイムの時間に運動場に出て鉄棒を頑張っている子どもたちにいろいろな言葉をかけています。今は「こうもり振り下り」という、両足を鉄棒にかけて前後に振り、足を離して下りる技が流行っています。とてもスリルがあって、これができるとみんなから一目置かれるようなとてもかっこいい技です。この技ができるようになるためにどんなアドバイスをどう伝えたらいいのか考えます。「頭の位置を高くしよう。」とか「こっちによく振って。」とか、「着地するところを見て。」とか、いろいろなアドバイスをします。でもその言葉が、一人ひとりの子どもたちの動きの中に活かされているのだろうかということは、器械運動を少しかじってきた私でも疑問に思うことがあります。そんなときにいつも思い出すのは、これまでにいろいろな先生や先輩、友達からかけてもらった言葉です。

高校生時代にサッカーの授業で、トラップ（ボールを止めて支配すること）の練習をしていたときに、体育の先生から「足の柔らかいところにボールを当てて落とすんだ。高いボールは落ちてくるところでトラップするといいぞ。」というアドバイスをもらいました。このアドバイスは数十年たった今でも忘れないもので、大人になってからもサッカーをする機会があり、そのたびに思い出しながらプレーをしていました。確かに自分のプレーが変わったなと実感しました。

小学校３年生のときに、近くの砂場で、上級生たちが軽々とバック転をするのを見て、自分もできるようになりたいと思いました。まねをしようとするのですがなかなかできません。そして、上級生にどうやったらできるかを聞きながら練習をすることにしました。「後ろに跳べ。」と何度も教えてくれましたが、イメージがつかめずなかなかできません。そんなときにある上級生が、「いすに座るような感じで…」と言葉をかけてくれ、その言葉のおかげでなんとかできるようになりました。

この二つの言葉は、自分にとってすとんと落ちるものでした。

井上ひさしさんの本で心に残っている言葉があります。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」というものです。

「ゆかいに」までは難しくとも、「むずかしいことをやさしく」伝える、そんな言葉の使い手に少しでも近づきたいと思いつつ、令和４年を締めくくろうと思います。皆様、今年も本校の教育活動への多大なるご支援、ご協力ありがとうございました。